

「神の山に登る」井上隆晶牧師
出エジプト記 33 章 13 節、18～25 節、34 章 1～5 節

①【神が共にいることに固執したモーセ】

モーセが神の山に登り十戒をもらっているとき、山の麓ではイスラエルの民は自分たちを救ってくれた神を裏切り、金の子牛の偶像を造っていました。神は怒り、もうこの民と共には行かないと言われます。もつともだと思えます。「わたしはあなたの間であって上ることはしない。途中であなたを滅ぼしてしまうことがないためである。あなたはかたくなな民である。」（出エジプト 33：3）近くにいたら民の不信仰の姿を見て怒り、滅ぼしてしまうかもしれない、だから一緒には行かないというのです。これと同じような言葉をイエス様も言われたことがあります。イエス様が山から降りてきて、弟子たちが悪霊に憑かれた子供を癒せなかったことを知ったとき「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまで私はあなたがたと共にいられようか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。」（マタイ 17：17）と言われました。イエス様も弟子たちの不信仰を我慢しているのです。神様って不信仰な人間の間に住むことに耐えられないのです。神が喜ばれるのは信仰です。（ヘブライ 11：6）知識でも力でもありません。信仰を持たずに神に近づくことは自殺行為です。

●アメリカの南北戦争の時、戦局が北軍に有利に展開しだしたのを見て、ある人がリンカーン大統領にあい「われわれはもう恐れる必要はありませんね。神様がわれわれの側にいらっしゃるからです」と言いました。リンカーンは「そうですね。でも、今、われわれにとって最も大切なことは、われわれが神の側にいるということです。」と戒めたといひます。

モーセはこれを聞いて、主が御心を変えて、イスラエルの民と共に進まれることを執拗に願いました。「もし、あなた御自身が行ってくださらないのなら、わたしたちをここから上らせないでください。一体何によって、わたしとあなたの民に御好意を示してくださることが分かるのでしょうか。あなたがわたしたちと共に行ってくださることによってではありませんか。そうすれば、わたしとあなたの民は、地上のすべての民と異なる特別なものとなるでしょう。」（出エジプト 33：15～16）神が共にいてくださるからこそ、私たちは特別な者となるのです。神が共にいなければ私たちは何の役にも立ちません。イエス様の譬えで言い換えれば、塩味のない塩は地に捨てられるのです。だからこそ「神様、わたしにはあなたがどうしても必要なのです。どうか私と共にいてください」と言いましょ。

②【民と共に歩まれるキリストという岩】

モーセは「神が共にいてくださることが神の御好意だ」と言いました。実に祝福

とは、神が人と共にいて下さることなのです。神が共にいてくださる結果として恵まれるのです。モーセはそれが分かる人でした。エジプトに奴隷として売られたヨセフは、無実の罪を着せられ牢屋に入れられましたが、主が彼と共におられたので守られ、知恵が与えられ、問題を解決することができました。「**主がヨセフと共におられた**」(創世記 39 : 2、3、21、23) という言葉が実に四回も繰り返されています。

モーセの願いを聞き入れた神は、共に上ることを約束されました。そこでモーセは「**あなたの栄光をお示してください**」(33 : 18) と頼みます。栄光とは神の現われですから、姿を見せてくださいということです。姿さえ見えれば民は安心すると思ったからでしょうか。すると神は、「**あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。見よ、一つの場所がわたしの傍らにある。あなたはその岩のそばに立ちなさい。わが栄光が通り過ぎるとき、わたしはあなたをその岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、わたしの手であなたを覆う。わたしが手を離すとき、あなたはわたしの後ろを見るが、わたしの顔は見えない。**」(出エジプト 33 : 20~23) と言われます。人は神を見ることはできませんが、神の傍らにある一つの場所、それは岩ですが、その岩に隠れて神を見ることができるといいます。後姿を見るとは、神のなさった業は見えるという事でしょう。「**この岩こそキリストだったのです。**」(I コリント 10 : 4) とパウロは言っています。この岩がイスラエルの民と離れることなく共に旅をされたのです。私たちはイエス様を通して神を見ます。そのイエス様が「世の終わりまであなたがたと共にいる」と約束されました。

③【**神の山に登る努力をしよう**】

主はモーセに向かって「**明日の朝までにそれを(二枚の石の板)用意し、朝、シナイ山に登り、山の頂でわたしの前に立ちなさい。**」(出エジプト 34 : 2) と言われました。そこでモーセは、朝早く起きて、主が命じられたようにシナイ山に登りました。すると「**主は雲のうちにあって降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された。**」(34 : 5) と書かれています。シナイ山はとても険しい岩山で、山頂まで2時間ほどかかりますから、モーセは朝4時くらいに起きて登ったのでしょう。私たちもモーセのように朝毎に2時間かけて神に出会う準備をしなければなりません。つまり祈りで神の山に登るのです。神に出会うにはそれだけの時間が必要なのです。「**聖なる生活を抜きにして、誰も主を見ることはできません。**」(ヘブライ 12 : 14) とあるからです。祈りの生活をした者だけが、神を見ることができるのです。

●ロンドンにジョージ・ミュラーという牧師がいました。彼は孤児の父と言われた人で、日本の孤児のために生涯をささげた石井十次は、彼の生き方に倣った人です。ミュラーは祈りで何千人という孤児を養いました。彼が絶えず口にしていた聖句は「**私は決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない。**」(ヘブライ 13 : 4) でした。彼は病気をするほど祈りました。祈るけれども、神はぎ

りぎりの所に行くまで、決して与えてはくれませんでした。しかし遅すぎることも、多すぎることも決してなく、これだけのお金が必要だと祈っていると、きちっと与えられました。

神は人と共にいてくださることを約束されました。しかし人の方も神と共にいる努力をしなければなりません。信仰がなければ神に喜ばれず、聖なる生活を抜きにして神を見ることはできないことをもう一度、しっかりと覚えたいと思います。